

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972400279		
法人名	有限会社かたくり		
事業所名	グループホーム ほっとステイ万葉の里		
所在地	栃木県 佐野市 栃本町 3128-5 電話:0283-62-8900		
自己評価作成日	平成28年 9月22日	評価結果市町村受理日	平成28年11月14日

※事業所の基本情報は

基本情報	http://www.kaigokensaku.jp/09/
------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成28年10月14日	評価確定(合意)日	平成28年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホーム万葉の里では、たとえ認知症になったとしても最後まで『普通の生活が送れるよう関わる』、上でのその方の人生・その方の大事にしていること・その方の大切な人を受け止めると同時に、如何にして私たちが利用者者に受け入れられるかを常に考え“喜び”“悲しみ”“楽しみ”“苦しみ”を共感しあい、その上で 安心して一緒に暮らすことを目指します。 また、スタッフに関しても、『尊厳のあるその人らしい生活』を目標とし、より良いケアを目指し取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成16年開設で通所介護併設の事業所です。理念の解釈文を通して共有し、実践として3Yケア(感謝の心で優しく、ゆっくり、寄り添って)を基本に、利用者が普通の生活が送れることを願い、職員同士が話し合いながら利用者本位の支援に努めており、家族からは利用者への目配り、気配り、対応の素早さに感謝の声も聴かれる。公民館や神社の清掃ボランティアに参加したり、毎日の散歩途中での近所の方との会話や事業所主催の夏祭りに小学生や近隣住民などの参加が定着するなど地域との繋がりが一層深まっている。運営推進会議は定期開催され、利用者状況や行事報告などの後、委員からは転倒リスクへの質問や水害対策の避難訓練の必要性の提案があるなど双方向の会議となっている。緊急通報の連絡網に町内会長、地区民生委員他が登録され、災害時に備えている。利用者、家族の思いや、意向、希望に合わせ医師や看護師など関係者と連携して終末期のケアまでを視野に入れた介護に日々努め、地域の期待も大きい事業所です。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある「普通の暮らしを送れるよう」の文章に基づいて利用者本位のケアに心がけている。	運営理念の解釈文を通して共有を図り実践に繋がっている。日々の支援の中でも3Yケア(感謝の心で優しく、ゆっくり、寄り添って)を基本に、利用者が普通の生活を送れることを願い、職員同士が話し合いながらより良いケアを確認し、利用者本位のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者散歩など外に出かけた時には積極的に話かけを行っている。また、近隣の方にお野菜などいただくこともあります。	事業所主催の夏祭りも定着し、多くの小学生や運営推進会議の委員、近隣住民、家族などの参加が得られ、利用者も一緒に楽しんでいる。公民館や神社などの地域の清掃ボランティアにも参加しており、毎日の散歩途中での近所の方との挨拶はもとより、野菜や時に米の差し入れもあるなど地域との繋がりは一層深くなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内外にての交流の際、認知症の関わり方や対応など伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、利用者家族や地域の方々に運営推進会議参加で、家族からの意見を職員会議と日々の申し送りで検討し改善をしている。	利用者、家族(輪番)、町内会長、民生委員、市職員、地域包括が委員であり定期開催されている。利用者状況や行事報告の後、委員から転倒リスクへの質問や水害対策の避難訓練の必要性の提案があるなど双方向の会議となっている。併設の通所介護の運営推進会議も半年に1回の開催が義務付けられ、9月は初の合同開催となっている。	事業所の抱えている課題や地域への協力要請などを議題として、事前提示することで、事業所運営に有用な意見、提案が得られ、より活発な会議となることに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域で会った際には、意見交換をしています。また、避難所として場所を提供している。	介護度の変更申請や相談などで窓口に出かけたり、内容によっては電話で報告してアドバイスを受けるなど連携を密にしている。災害時の地域住民の避難所としての指定を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束の研修を行い、ケアするときには注意を払って当たっている。	内部研修で年に一度は高齢者虐待・身体拘束について議題に取り上げ、職員への徹底を図っている。ヒヤリハットや転倒事故が発生しているが、対応が安易に安全面のみ囚われないよう、職員同士や時には家族も交え何度も話し合い身体拘束にならない見守りなど、対応策の実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者ケアの際、虐待がされていないか日々チェックを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が利用されており、職員には研修の案内等を回覧や表示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族様に見学していただき、施設の説明、家族疑問などを話し合い納得してから、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に來客された時には気兼ねなく話ができる関係を築くためこまめな連絡を取っている。	利用者、家族も運営推進会議に出席しており、時には利用者の意見として「外に行きたい」などがあり、家族と相談して実行に移している。家族の訪問時には積極的に声掛けして意見要望を聴くように努め、職員の名札の着用、共用スペースの季節感確保の要望・提案などがあり反映に繋げようとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の話し合い会議で意見や提案をしていただき、日々検討し改善に努めている。場合によっては個別に話を聞く機会を設けている。	管理者、ケアマネージャーも介護職の一員として常に現場に入っており、身近で職員の意見提案を聴くケースが多い。早番の時間変更やパートによる時間調整、ローテーションの変更など職員の意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じた配慮や立場の位置付けをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者への理解と実績に応じた研修機会を提供している。また、研修後の報告もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事等同業者を招いたりして、訪問参加して、意見交流の機会を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に在宅、施設へ訪問し、利用者、家族、ケアマネージャー等から話を聞き、安心してサービスを利用していただけよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の相談、要望、悩みなど、話し合いの場を設け、家族の立場に立ち気持ちを受け止め、より良い関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族、ケアマネージャーから話を聴き、他のサービスが必要な場合には、紹介、相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができる家事の手伝いを積極的に一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、本人の状況や希望を伝え、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が訪ねて来た際、お茶などを出しゆっくり話ができるようにしています。	半数以上が利用開始1年未満で家族の訪問は多くあり、月1度は訪ねて来る友人もいる。来所時には部屋でゆっくり過ごしてもらい、茶菓の接待や、行事の写真などを見せて話題提供など行う時もある。また再来訪のお願いもしている。併設の通所介護のカラオケに通い、新たに友人になり互いに行き来している例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、相性を把握し同じテーブルになるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退所された方は、お見舞いに行ったりしている。また、契約終了後も、気軽に遊びに来てくださいと話しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	他の利用者との会話などで利用者の思いをくみ取るため傾聴している。また言葉にならない、声に気づくために、利用者の行動を観察して対応を検討している。	言葉で思うように意思表示できない人が多く、利用者同士の断片的な会話を傾聴する中から食べたいものや、行きたい場所など推察できることもある。また、手での拒否表示や、テーブルを叩いたりの行動からも情報の積み重ねで「何をしたいのか、して欲しいのか」を推察、確認し本人本位になるよう努めている。得られた情報は申し送りやケース記録で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何気ない生活の中で、いつもと違った行動や状態の時には、経過記録に記入と他の職員にも報告して把握につとめている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	挨拶で利用者の顔色や目の輝きをみ、声掛けを行い、いつもと違う様子がないか、観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設内での気付きを、利用者、家族とで話し合い連携して利用者本位の介護計画を行っている。	6ヶ月ごとの見直しを原則としている。ケアマネジャーは常に現場にいるので、職員からの情報と併せて自らも利用者の変化は逐一把握できている。状況変化に合わせて家族とも連絡を密にして現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に気づいた事、いつもと違う行動や言動を記録している。また、違う行動が続くような場合は、随時職員間で意見交換をして見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望強く出た時には、家族に連絡して外出計画を立てたりしている。また、施設でも散歩やデイサービスへ行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの協力を得て支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を継続できる様、家族等の協力を得ながら支援している。また、希望がある場合、協力医のかかりつけ医をお願いする事もある	4名は利用者、家族の希望で長年の付き合いがある「かかりつけ医」との関係継続を支援している。5名の利用者は訪問診療や往診のある「協力医」に変更し、利用者、家族の安心に繋がっている。かかりつけ医の受診結果は家族から口頭で受け、個人別受診ノートに記入して全職員で確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師に相談する他、協力医の看護師、かかりつけ医の看護師に、受診時往診時に、相談協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に訪問し看護師等より入院時の情報を得ている。また、かかりつけ医、家族とも相談しながら、退院計画を立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、状態変化時に本人ご家族の希望を伺い、施設が出来ることを説明し話し合いながら方針を共有し、支援している。	契約時や状態変化に合わせて「事業所における看取り指針」に沿って本人、家族に説明し都度、同意を得ている。重度化や終末期の判断は医師、併設事業所の看護師の指示に従うと共に、家族とも話し合い事業所の対応方針を共有しているが、終末期が近づくにつれ、家族の意向変更が多く最期は病院へ入院となるケースが増えている。施設長は日頃より本人の満足が得られる支援を目指すよう職員と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成している他、定期的に職員会議等で講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数度の通報訓練、消火訓練、避難訓練を行っている。また、運営推進会議等で地域の方に協力を得られるように、働きかけしている。	年2回(2月、10月)夜間想定通報、消火、避難訓練を防災業者立ち合いで行っている。反省点として初期消火の不慣れや火元の近くから誘導の不徹底、初の取り組みとして避難済み確認のため各居室の名札を裏返すを実施したが不十分などが指摘されている。利用者全員の防災頭巾や、職員が持ち出す非常用リュックサックなどは準備されている。緊急連絡網には近所の町内会長、民生委員他が登録され、地域との協力体制を築いている。	近所の方の訓練への参加要請や煙を意識した避難方法の習得、車椅子や手引き歩行者の夜間就寝中の短時間での避難誘導方法の工夫、消防が来るまでの短時間に対応するシンプルマニュアルの作成と徹底などの実現に期待します。さらに自然災害(河川氾濫など)への対策にも期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとり尊重と尊厳を心掛け個性を大切に考え支援介助を行っている。	利用者の人格を尊重し、正面から目線の高さを合わせ適度な間合いをとり、ゆっくりと個々人にあった声掛けをしている。出かける際には服装や化粧へのアドバイスをするなど誇りを損ねないようにも支援している。同じことの繰り返しであっても、決して否定する事無く話を聴くように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者会話の中、表情や仕草を注意深く観察し、明るく優しく寄り添い自己決定できる様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にそって希望にそように支援介助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容支援と、定期的に美容院の方に来ていただきカットをいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しく美味しく食べて頂けるように、味付けや硬さなどを変えています。食事後利用者様にお手伝いをお願いして片付けを行っています。	献立はケアマネージャーが作成し、調理は職員が交代で行っている。食材の買い出し時には利用者も一緒に出掛けることもある。配膳や下膳を手伝う人(2人)もいる。体調や好みに応じて食が進むよう味付けや形態を工夫している。職員は要介助者(3人)の介助と見守りに徹している。2ヶ月に1度は併設の利用者と一緒に外食に出かけ、食に変化を付けるなどの支援もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、消化吸収、体調を考え、食べやすい工夫をし食事提供を行っている。また、脱水にならないよう記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者に応じた磨き方、スポンジブラシや口腔ウエットティを行っている。就寝前には洗浄剤使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄リズム、排量にあった声かけや誘導をする。また、排泄の前ぶれ動作を見逃さずに、トイレでの排泄ができるように支援している。	時間誘導を原則としているが、テーブルを小刻みに叩くなどの前兆も察知し、トイレ排泄に努めている。4人は見守り程度の自立であるが、2人は座位の維持が難しくなり止む無く昼夜共におむつ対応となっている。夜間帯も声掛け誘導でトイレ排泄を支援しているが、中には睡眠優先でパッドの大きさを調整している事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の水分摂取に合った方法を工夫している。また、声かけや運動、腹部マッサージなどの支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声かけを一人ずつ伺いながら決めている。個人で持ってこられた、お気に入りのシャンプー、リンス、入浴剤使用し、個人の好きな会話をして楽しみながら入浴している。	週2～3回、午前中に入浴しており、その日の体調や希望に応じて柔軟に対応している。入浴を嫌がる人はいないが、時には順番などでこねる利用者もあり、気配りが必要な場合もある。希望により可能な限り同性介助にも応じ羞恥心にも配慮している。1対1で職員との会話を楽しみにしている人が多く、本音が聴ける貴重な場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の暮らしが安全で安心できる生活が過ごせるよう、疲れやすい利用者様にはベッドの誘導し休ませたり、個々に応じた対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、量を把握し、服薬支援と服薬後の様子を注意深く観察し、変化がみられたときなど、看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い、歌、レクリエーションなど個人の得意とする事を無理時しないよう声かけしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の体感や草花などをみたり、地域の人たちとのコミュニケーションを楽しめるよう散歩などしている。	天気の良い日はほぼ毎日午前と午後30分程度近所へ散歩に出かけており、途中で近所の人との立ち話や、季節の花々を眺めて楽しんでいる。散歩が困難な人も中庭などでの外気浴に努めている。家族と外食の際に一時帰宅したり、希望に沿って職員が同行し長男宅に会いに行ったり個別支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はご家族様承諾のもと、施設でお預かりをしています。利用者様が必要な物などがある場合、職員と一緒に掛けて対応支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあれば、職員がダイヤルを押して連絡取れるようにしています。また、手紙も預かって、相手に渡しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアなどには、季節に合わせた飾りつけお行ったり、長いソファを置いて、好きな時に横になったりして、リラックスできるようにしている。また、エアコン設定も利用者様に確認しながら行っている	南向きの玄関入口から厨房まで見通せ全体に職員が目配りしやすい1フロアで、利用者もソファや、テーブルなど好みの場所で穏やかに過ごしている。壁面には利用者がボランティアと一緒に作った季節の作品を飾り、季節感を演出している。毎朝、トイレ、風呂、フロアの清掃を行い清潔が保たれている。	異食者対応のため、生花や観葉植物などの飾り気がなく、家族からもグリーン系の温かみのある観葉植物を置くなどを求める声も聞かれます。手の届かない場所に飾るなどの工夫で、より温かみのある演出に期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファやテーブルなどがあり自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前ご自宅で使われていた家具やテレビなど同じような配置をしてから、本人ご家族と相談して決めている。	利用者のプライバシーや希望に沿って心地よい居室を支援するため担当職員制にしている。小型テレビや家族の写真、仏壇、筆筒、テーブルなど使い慣れた品を持ち込み職員と話し合いながら居心地よく過ごせるようにしている。清掃時にはモップ掛けなどを手伝う利用者(2人)もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関先にベンチ施設内にソファ各通路には手すりを設置しています。また、併設のデイサービスにも自由に行き来している。		